

< 祈禱会の聖書から >

【礼拝】キリスト教会の中心になる働きが礼拝です。礼拝をしない教会はありません。神学の一つの科目として、どんなに大切かが分かって来るのですが、メソジスト教会においても同じです。そこには神学が必ずあります。特に説教においてこの教会らしさが現れます。もし説教に神学とか、教義といえるような内容のものがなかったら、どうなるでしょうか。

【説教】説教に、基本的な教会の神学を迫及しなかったら、どうなるでしょうか。昨日語ったことと全く違った内容になってしまうでしょう。聞き手が“今歓迎してくれる”ことを探して語るでしょう。そして印象のみが評価され、経験として残らない、内容のないものになってしまうでしょう。これは、語る者にとっても聞く者にとっても同じです。ですから、反対により説教には教会の歴史が生きているのです。

【主イエスの礼拝】先週の祈禱会では、ルカ福音書4：16～23が開かれました。出来事の場所はナザレです。主イエスの故郷ということになります。ここにもユダヤ人がいましたし、会堂（シナゴグ）で毎週土曜日に、礼拝を守っていました。そして聖書（旧約聖書）の朗読がなされ、説教が行われていました。礼拝の原型の光景です。ここにイエス様も集われたということになります。人々はこの日を安息日として守り、生活の拠所としていました。“やがてキリストなる方”が現れ、神の支配がやって来る。人々はそのように信じ、安息日を豊かなものにしようとしていました。

【エルサレム】しかし、信仰の中心はエルサレムでした。この中心という言葉も注意して聞く必要があります。私たちは聖地という言葉を使いますが、それは、聖書に記録されている出来事の起こった地域のこと、確かに聖書は、この場所を故郷にしています。しかし信仰の中心場所（日本のいくつかの宗教が本山というものをもっていますが）というわけではありません。この草薙教会でも同じなのです。福音が伝えられるところではどこでも同じであることに気がしましょう。

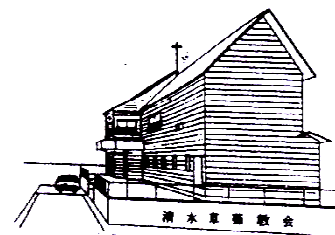
【実現した】21節に“実現した”と書いてあります。今まで草薙でも使用していました口語訳や新改訳聖書では“成就”となっています。成就というのは、かつて語られたことや、計画されたこと、長い間願っていたことが、時満ちて現実のものになるという、時間的広がりをもつ言葉です。

【受け入れられない】つまり、人々は信じていることが、今そこで語られ宣言されたのに、信じられなかったのです。信じていることが信じられない、変な表現ですが、心の頑固さを示しています。この頑固さが、主イエスに十字架の道を用意させたかのように思えます。

【福音】教会は福音を語ります。倫理的に素晴らしそうに見えることを語るのでもなく、親切さやぬくもりを売り込むのでもありません。音楽的な美しさでごまかすこともしないのです。どんなときにもそうするのです。

週報

2011年 10月 2日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042